

平成23年度私立学校初任者研修 関東地区神奈川県研修会実施報告

本年度の私立学校初任者研修 関東地区神奈川県研修会が、8月23日（火）から24日（水）の2日間、横浜市の神奈川県私学会館で開催され、定員を大きく上回る160名の参加があった。

まず、神奈川県私立中学高等学校協会理事長であり聖光学院高等学校の校長でもある工藤誠一氏による講演「神奈川県私学の歴史と現状」でこの研修は幕を開けた。私学と公立の違い、私学を取り巻く喫緊の課題等、内容は多岐にわたり、私学にとって重要なことばかりだった。



次に、文化学園大学杉並高等学校名誉校長である野原明氏の講演「教育をとりまく環境と教員の役割」では、学習指導要領とPISA型学力についても問題や、教員免許状制度の今後の展望など、教育界を取り巻く社会の動きについて詳細な説明がなされた。

午後からのシンポジウムでは「私学教員としての夢、希望」という協議題で、沖田耕一 聖光学院高等学校教諭、熊本秀子 湘南白百合学園高等学校教諭、佐藤美紀子 清泉女学院高等学校教諭、鈴木貴行 藤沢翔陵高等学校教諭、古川心平 藤嶺学園藤沢高等学校教諭の5人によって

未来の日本を担う私学教員のあり方が議論された。

続いては、弁護士 八代英輝氏による「笑いと文化の法」と題する講演だった。八代氏は、テレビのバラエティ番組にもレギュラー出演しているだけあって、巧みな話術で受講生を魅了していた。



研修2日目。この日は終日グループ討議が行われた。午前中は生徒指導、午後からは教科指導について、少人数のグループに分かれて話し合いがもたれた。

最後に討議のまとめとして全体会を行い、2日目の研修に幕を下ろした。